

【東京】精神科オンラインの長所「場所と時間の制約、心理的ハードルが減少」-渡邊功・iこころクリニック日本橋院長に聞く◆Vol.2

2021年7月16日（金）配信 m3.com地域版

国が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として2020年4月に初診からのオンライン診療を解禁して1年余り。「iこころクリニック日本橋」の渡邊功院長は精神科クリニックとしては珍しく、解禁当初に同診療を導入し、現在も継続している。「患者が手軽かつ気軽に医療受診でき、画面を介することで相談しやすさも生まれる」と渡邊院長。オンライン診療のメリットを詳しく聞いた。（2021年5月23日インタビュー、計3回連載の2回目）

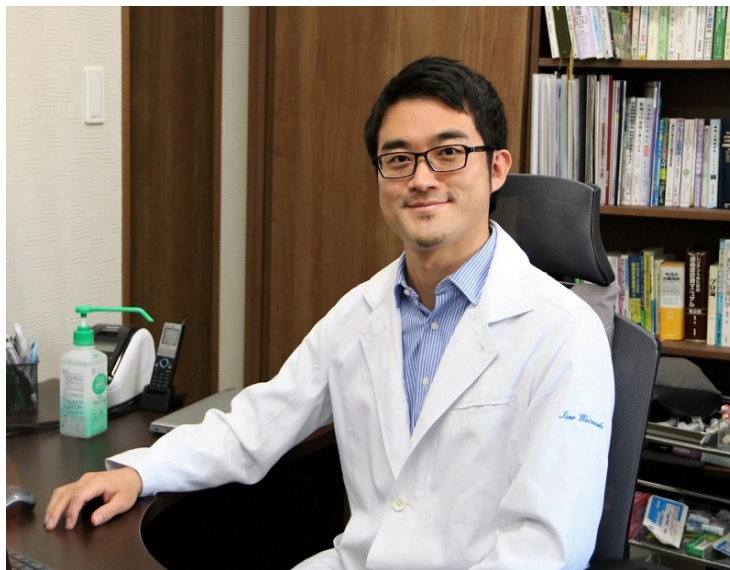
▼第1回はこちら

▼第3回はこちら（近日公開）

——iこころクリニック日本橋では、厚生労働省が初診からのオンライン診療を解禁した2020年4月から同診療を行っています。精神科の場合、どんな患者が利用しているのでしょうか。

さまざまですが、割的にはセカンドオピニオンを求める方が目立ちます。既に他の精神科で診療を受けているものの、「この医師の方針に従っていて良いのだろうか」と疑問を持っている人が、物理的なハードルのないオンライン診療を「役立つサービス」と捉えて利用している、といった印象です。あとは、地方に住んでいる方で自分が精神的な病気なのかどうか気になっている人が「まずは確認したい」とご相談されることも多いですね。

時期的な特徴を挙げると、COVID-19に影響を受けている人もいます。以前から不潔恐怖など強迫性障害に近い症状があり、COVID-19の流行によって家の外に出られなくなるなど問題が顕在化した人が受診するケースもあります。



渡邊功院長

——何らかの理由で外出できない人からすると、オンライン診療は希望になりそうです。先生が思う同診療のメリットは。

患者さん目線而言えば、手軽かつ気軽に医療受診できることが大きなメリットでしょう。精神科は他の診療科に比べて受診のハードルが高くなりがちですが、オンライン診療は家にいながらいつも使っているスマートフォンを介してできるので、精神科特有のマイナス要素を軽減できる可能性があります。物理的な障害がなくなるので、相談したい医師を選べることも利点と言えます。

忙しい人にも有効です。先日、テレビ関係の仕事をしている人からオンラインで相談を受けました。その方は希死念慮を抱えており、「いのちの電話」に相談するなどしたそうですが悩みが軽減されなかったといいます。一方、普段は朝まで仕事をしていることが多く、なかなか医療機関に行く時間が取れないと話していました。私が話を聞いた時も仕事の合間を縫い、外からスマートフォンを使っていました。

——対面受診の場合、移動時間を含めると1～2時間かかることが多いと思います。場所と時間の制約が和らぐ点はオンライン診療の大きなメリットなのですね。

そうですね。加えて、対面よりもオンラインの方が「相談しやすい」と感じている患者さんが少なくないかもしれません。患者さんに直接聞いたわけではないのであくまで私の印象にすぎませんが、「画面越し」という物理的な距離感が良い影響を与えているのか、対面よりも緊張せずフラットに話す患者さんが多い印象です。対面診療では患者さんが自らの症状に焦点を絞って話されることが多いのですが、オンラインだと症状が起きた経緯も丁寧に話す傾向があるためです。

対面ではそもそも、患者さんが医療機関に行く必要があります。この「自ら出向く」という行為が患者さんにアウェイの感覚をもたらし、さらにスタッフの指示に従って待たされたり、別室に移動させられたりするなど受け身になることが続くことから、知らず知らずのうちに患者さんの意識の中で医療機関との上下関係を感じてしまい、話しくらくなっている可能性があるのではないのでしょうか。

一方、医師側から見たメリットは、患者さんの選択肢を増やせる上、治療の中断リスクを減らせることです。当院には神奈川県や千葉県など東京都以外に住んでいる患者さんもいますが、そういった方の場合、対面診療を受ける場合は患者さん側が事前にスケジュールを調整する必要があるわけで、その人の忙しい時期は来院が難しくなってしまいます。しかしながらオンラインを活用すればそんなときも受診を継続しやすく、現に対面とオンラインを組み合わせてながら診療を受け続けている患者さんがいます。治療中断による状態の悪化を防ぐ意味でも、オンライン診療は武器になり得ます。

——「画面越しが良い影響をもたらす」というのは示唆に富み、興味深いです。精神科の場合、医師に会って話をしたい患者が多いのかと。

直接会って話すことに満足感を覚える人は多いと思いますが、結局のところ、受診の方法に対する患者さんのニーズはその人の性格や状況、相談内容や悩みの深さによって異なるということでしょう。「気軽に専門の医師に話を聞きたい」人や「まずは自分が病気がどうか確かめたい」人、「自分の主治医の方針に疑問を持つ」人などとオンライン診療は相性が良いと思います。

自分が病気ではないかと考えている人の場合、対面で「病気ではない」と伝えられるとショックを受ける人もいます。そのことによりセカンドオピニオンを求めに私にオンライン相談をされることもあります。

——対面診療の場合、場所と時間に制約があることでなかなか受診に踏み切れない人もいます。受診までにいろいろなことを考え、たどり着いた予想と医師の発言が違う場合、自分のこれまでの過程が裏切られたように感じ、ショックを受ける——ということもあるのではないかと思います。

あるかもしれません。オンライン診療を活用することにより、その人が何かを気にしだしてから受診までが対面より早まることで、それが複数の意味で当事者にプラスに働くことはあるのではないのでしょうか。

◆渡邊 功（わたなべ・いさお）氏

2012年福島県立医科大学卒。国立国際医療研究センター国府台病院や北里大学東病院、神奈川県の精神科クリニックなどへの勤務を経て、2019年、「iこころクリニック日本橋」を開院。国がCOVID-19の対策として初診からのオンライン診療を解禁した2020年4月、オンライン診療を始める。

【取材・文・撮影＝医療ライター 庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

